平成30年11月5日 平成30年度第1回 春日井市都市計画審議会

報告事項

都市計画に関する基本的な方針(都市計画マスタープラン) の策定について

1. 都市計画マスタープランの構成と視点の整理

次期都市計画マスタープランにおいて、現行の計画策定後の都市づくりに関する社会潮流を整理し、それら潮流と照らし合わせたうえで、以下の視点に基づき本市の人口、産業、移動等の動向を整理し、次期都市計画マスタープランで 捉えるべき都市づくりの課題や目標を検討する。

1. 都市計画マスタープランの構成

現況と課題

- 1. 都市計画マスタープランの策定に向けた視点の整理
- 2. 都市の現況と都市づくりの課題
- 3. 都市づくりの目標・将来都市構造
- 4. 分野別のまちづくり方針
 - 1. 土地利用の方針
 - 1-1. 市街化区域
 - 1-2. 市街化調整区域
- 2. 都市施設整備の方針
- 2-1. 市街地整備・住環境整備
- 2-2. 道路•交诵
- 2-3. 公園・緑地・都市景観
- 2-4. 都市防災

地域別構

- 5. 地域別まちづくり
 - (1)南部地域
- (5) 中北部地域
- (2) 西部地域
- (6)東部地域
- (3)中部地域
- (7)北部地域
- (4)中東部地域
- 6. まちづくりの推進方策

2. 策定に向けての視点

次期都市計画マスタープラン策定に向けた検討の視点

1. 人口動向について

本市は今後人口減少が予測されている。人口増加による住宅地の提供や工業、商業地の提供を進めてきたなか、どのような土地利用、市街地整備(高蔵寺ニュータウンの対策等)を目指していくか検討が必要。

2. 産業について

持続的で安定的な都市経営に向け、活力と雇用を生み出す産業振興を図るため、広域交通のポテンシャルを活かした効果的な産業基盤の創出が必要。

3. 子育て世代にとっての魅力向上について

子育て世代にとって住みたくなる魅力的な居住環境を提供するため、どのように効果的かつ戦略的な土地利用、市街地整備(拠点整備)を目指していくべき検討が必要。

4. 安心・安全について

市民に安心・安全な居住環境を提供するため、生活道路等の歩行環境の改善や、水害に対する安全な住宅地の形成に向けた都市基盤の実現が必要。

5. 公共施設等について

公共施設の継続的な維持・更新をするためには、効果的な財政投資を実施していくことが必要。また、既存ストックを有効活用して魅力的な都市づくりに繋げていくことが必要。

国の動向

- · 都市再生特別措置法(立地適正化計画)
- ・都市緑地法の一部を改正する法律

視点1

人口減少・少子高齢化への対応

視点2

産業の維持・活性化

視点3

子育て世代が魅力的と感じる都市 づくり

視点4

安心・安全な市街地形成への対応

視点 5

既存施設の管理・更新費の増大 への対応

3. スケジュール

第 1 回 策定委員会

7月9日(月)

計画策定に向けて

第2回 策定委員会

10月26日(金)

全体構想骨子(案)

都市計画審議会

1 212

全体構想骨子(案)

11月5日(月)

地域懇談会

第1回目

11月10日(土)・11月17日(土)

第2回目

12月15日(土)・12月16日(日)

第3回 策定委員会

1月11日(金)

都市計画審議会

3月下旬

〈予定〉

○地域別構想の検討

〇パブリックコメント

〇都市計画MP 公表

■ 平成 30 年度 ■

━━ 平成 31 年度 ■

2. 都市の現況と都市づくりの課題

今後の都市政策の検討に向け、先に示した5つの視点をもとに、現況調査における地域特性や今後の見通し及び現行計画の検証結果に基づき、対応すべき都市づくりの課題を整理する。

視点ごとの捉えるべき都市の現況 都市づくりの課題 ①人口減少、高齢化社会への対応(根拠1) 『視点1:人口減少・少子高齢化への対応』に向け捉えるべき現状 ○人口は、平成27年まで増加傾向であったが、今後は人口減少するとともに、高齢化が進行すると予測【根拠1】 ②居住の多様性(駅近居住、郊外型居住)への対応 ○市街化区域内の土地区画整理事業施行済区域を中心に人口が分布【根拠2】 (根拠 2.3.4) ○世帯人員が減少しているほか、核家族世帯や単独世帯の割合が増加【根拠3】 ③形成してきた市街地内に有する資源(農地、空き地、空き家) ○過去 10 年間で、勝川駅や神領駅周辺地域などで人口増加率が高く、高蔵寺ニュータウンの一部や市街化調整区域の既存集落にお などを活かした転換促進(根拠1.5) いて減少率が高い【根拠4】 ④ニュータウン等の既存ストックを活かした住宅のリニューアル ○高蔵寺ニュータウンや市街化調整区域などで高齢化が進行【根拠5】 による循環の促進 ○春日井駅や勝川駅の周辺、高蔵寺ニュータウンで高層の共同住宅が多い傾向 【根拠6】 ○土地区画整理事業施行済の地域でも、農地などが多く残存【根拠7】 ①交通の円滑化に向けた都市基盤の形成(根拠 11, 12) ○高蔵寺ニュータウンの日常的な買物は、団地内での移動が多いと想定される【根拠8】 ○基幹的公共交通カバー圏 66% (居住誘導区域に対して)【根拠9】 ②移動手段に応じた交通結節機能の強化(根拠 11, 12) ○名鉄バス路線の区域を補完するように、かすがいシティバス、高蔵寺ニュータウン内をサンマルシェ循環バスが運行【根拠 10】 ③行きたい場所への選べる交通手段の確保(根拠8.9.10.12) ④誰もが安全に歩ける歩行環境の確保(根拠8,12) 『視点2:産業の維持・活性化』に向け捉えるべき現状 ○通勤・通学の特性は、約半数が市内移動で、繋がりの強い市町は名古屋市、小牧市、瀬戸市などが最も高い【根拠11】 ○主要な交通軸である国道 155 号に未整備区間があるほか、市街化区域内においても一部未整備な都市計画道路が存在 ①市内事業の操業環境の向上(根拠 13) 【根拠 12】 ②進出需要を取り込む柔軟な産業基盤の確保(根拠13、14、15) ○市内の移動特性として、市北部の工業地への通勤移動や、国道 19 号沿いに多く立地する商業施設や主要な病院が立地する 地域への市内移動が多く見られる【根拠8】 ; ○平成22年以降、製造品出荷額等が増加、事業所数は減少傾向【根拠13】 ○工業系の用途地域内には一団の未利用地がほぼない状況【根拠 14】 ①人が行き交う駅周辺における魅力的な印象づくり(根拠 16) ○就業人口は、減少傾向だが、H27では増加に転じている【根拠 15】 ②市街地内の駐車場などを活かしたにぎわい空間の創出 『視点3:子育て世代が魅力的と感じる都市づくり』に向け捉えるべき現状 ③住宅地の提供に合わせた公園の整備と既存公園のリニューアル ○鉄道駅の乗降者数の合計は、1 日あたり約 15 万人であり、主要駅が地域の顔となるような魅力的な空間形成が必要 (根拠 17) 【根拠 16】(主な駅:高蔵寺駅約 4 万、勝川駅約 3.5 万、春日井駅約 3.1 万、神領駅約 2.7 万) ④水と緑の豊かな自然の維持及び利活用 ○区画整理を中心に基盤整備を行った経緯から、都市公園の分布、1人あたり面積は高い水準【根拠17】 ①豪雨による浸水被害の抑制に向けた対応(根拠18) 『視点4:安心・安全な市街地形成への対応』に向け捉えるべき現状 ②発災時における安全な避難行動への対応 〇庄内川、八田川、内津川が氾濫した場合の浸水予測において、市南西部の鉄道駅周辺の市街地部が浸水する予測【根拠 18】 ○鉄道駅周辺において、階段や段差解消などのバリアフリー化の対応が必要 ③身近な施設等のバリアフリーの対応 『視点5:既存施設の管理・更新費の増大』に向けと捉えるべき現状 持続可能な都市経営 ○「公共施設等のあり方に関する基本方針」における公共施設の更新費用の試算結果では、毎年 7.5 億円が不足と予測 横断的な公共施設の効果的な維持・更新及び利活用

3. 都市づくりの目標

都市づくりの課題、理念と、理念に基づく都市づくりの方針を以下に示します。

都市づくりの課題

住まいづくり

- ①人口減少、高齢化社会への対応
- ②居住の多様性(駅近居住、郊外型居住)への対応
- ③形成してきた市街地内に有する資源(農地、空き地、空き家) など を活かした転換促進
- ④ニュータウン等の既存ストックを活かした住宅のリニューアルによる循環の促進

移動環境づくり

- ①交通の円滑化に向けた都市基盤の形成
- ②移動手段に応じた交通結節機能の強化
- ③行きたい場所への選べる交通手段の確保
- ④誰もが安全に歩ける歩行環境の確保

活力づくり

- ①市内事業の操業環境の向上
- ②進出需要を取り込む柔軟な産業基盤の確保

魅力づくり

- ①人が行き交う駅周辺における魅力的な印象づくり
- ②市街地内の駐車場などを活かしたにぎわい空間の創出
- ③住宅地の提供に合わせた公園の整備と既存公園のリニューアル
- ④水と緑の豊かな自然の維持及び利活用

安心・安全づくり

- ①豪雨による浸水被害の抑制に向けた対応
- ②発災時における安全な避難行動への対応
- ③身近な施設等のバリアフリーの対応

持続可能な都市経営

公共施設の効果的な維持・更新及び利活用

基本理念

(案)

心地よく住む ~50年後も変わらず誇れるかすが にぎわいを生む 61 でありつづけるために 元気が集う かすが

都市づくりの目標

目標1:暮らしやすく居心地のよい居住環境づくり

具体目標

- ❖今住んでいる人がこれからも住み続けたいと思うまちづくり
- ◆多様な居住ニーズに応じた、選べる居住環境づくり
- ❖農地や空き地等を活用した良好な居住環境づくり
- ❖住宅団地等のリノベーションなどによる流通促進

目標2:誰もが便利で利用しやすい交通環境づくり

具体目標

- ❖市内及び近隣市町へ移動しやすい自動車交通環境の整備
- ❖主要駅における交通結節点の整備
- ❖多様な交通手段が選択できる環境の整備
- ❖安全に歩ける歩行空間の形成
- ◆だれもが快適に利用できる都市交通拠点の整備

目標3:元気で安定的な産業基盤づくり

具体目標

- ❖産業の振興に向けた選ばれる産業用地の創出
- ◆企業の誘致や既存の立地工場の操業環境向上に向けた必要な都市基盤の整備

目標4:思わず立ち寄りたくなる街なかづくり

具体目標

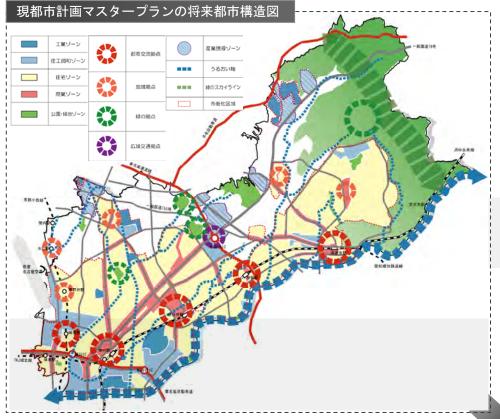
- ❖駅周辺の魅力を高めるための空間の形成
- ❖歩きたくなる・立ち寄りたくなる街なか空間の創出
- ◆誰もが利用したくなる公園機能の維持・拡充
- ❖憩いと潤いが感じられ、自然が体感できる空間の維持・創出

目標5:災害に強いまちづくり

具体目標

- ◆豪雨による浸水被害の抑制に向けた都市基盤の確保
- ❖発災時における迅速かつ安全な避難行動に向けた体制の構築

4. 将来都市構造と分野別のまちづくり方針の骨子



Ī,	個
יינ	レッリ

凡例		
	工業ゾーン	工場地として利便性を高めるための土地利用を誘導する地 域
	住工調和ゾーン	工場などの緩衝緑地や敷地内緑化を充実させ、住環境と調 和した職住近接の地域
	住宅ゾーン	良好な住環境を形成するための土地利用を誘導する地域
	商業ゾーン	土地の高度利用を図り、商業などの利便性を高めるための 土地利用を誘導する地域
	公園・緑地 ゾーン	自然資源を保全するとともに有効に活用し、憩いを与え交 流の場となる公園・緑地の形成を誘導する地域
	都市交流拠点	鉄道駅やバスターミナルを中心とした交流の玄関口となる 拠点として、日常生活の利便に資する商業の集積を図りま す。JR春日井駅周辺及びJR勝川駅周辺については、鳥居 松周辺にかけて行政、文化施設の集積も図ります
	緑の拠点	自然レクリエーションの中心となる拠点として、四季折々 の花木や草花を観賞できるなど自然とふれあうことのできる 場の形成を図ります
	広域交通拠点	都市間の広域交通の拠点として、インターチェンジ周辺と いう交通利便性を活かした産業の形成を図ります
	地域交通拠点	地域の交通の拠点として、多様なバス路線が集積するター ミナル拠点を位置づけ、交通利便性の向上を図ります
	産業誘導ゾーン	新たな産業系の土地利用を誘導する地域として、周辺の環境に配慮した地区の形成を目指します ※区域は現計画の状態であり、今後、区域の拡大・縮小等を検討し変更する予定
• • •	うるおい軸	水と緑に親しめる憩いの場となるよう、魅力ある空間とし て整備を促進する河川や緑道
•••	緑のスカイライン	緑を保全し、連続性のある稜線のスカイラインを守る地域
	市街化区域	市街化を促進する区域

